

1. 政策目標

総合型地域スポーツクラブ等を核とした地域スポーツ推進体制を整えるとともに、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進や地域の実情に応じたスポーツ活動の充実とその環境整備を行います。
その結果として、スポーツを「みる」「する」「ささえる」スポーツ参加人口の拡大を目指します。

2. 取組目標の達成状況

取組目標	目標値	改定当初()	R1	R3
総合型地域スポーツクラブの会員数	65%以上	44.3% (H28)	-	51.0%
※スポーツ観戦に関心がある者の割合	増加	61.4% (H28)	-	74.8%
スポーツ活動に関するボランティア活動を行っている者の割合	10%以上	4.0% (H28)	-	2.2%

・スポーツ実施率は増加しているが全国よりは低い
・「みる」活動への関心は大幅に増加している
・「ささえる」活動が少なくなっている

3. 施策の方向性ごとの成果と課題

(1) 新たなスポーツ推進体制による持続可能な地域スポーツの推進

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
総合型地域スポーツクラブの会員数	10,000人以上	7,726人 (H29)	6,836人 (R3)	・コロナ感染症拡大も影響し、会員数が減少傾向にあり、総合型クラブの認知度が低い(23%)こと併せて課題
運動やスポーツを行っているがもっと行いたいと思う人の割合	35%以上	25.2% (H28)	24% (R3)	・週1回以上のスポーツ実施率は上昇傾向にあるが、活動頻度を高める対策が必要
運動やスポーツに関心が無い人の割合	6%以下	13.3% (H28)	8.3% (R3)	・無関心層は減ったが、まだ目標に達していない
各地域スポーツハブでのスポーツ活動数	-	-	19% (R3)	・地域スポーツハブにより新たなスポーツ活動が提供されてきたが、部活動の受皿づくり、障害者スポーツ、スポーツツーリズムの取組が十分でない ・広域のニーズや課題を継続して捉える体制が十分でない

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●地域スポーツハブの取組を通じて、多分野の関係者の連携による対応の必要性は理解が深まってきた ●新たなスポーツ活動の提供が進み、多くの住民のスポーツ参加が得られた 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツを「する」「みる」「ささえる」人口の増加に向けて、地域地域の実情に応じて、課題やニーズを捉えた対応ができる体制の充実が必要

(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

指標	目標値	改定当初 ()は全国平均	直近の状況 ()は全国平均	現状・課題等
1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合	全国平均	小5男: 7.3% [6.3] 小5女: 12.7% [11.6] 中2男: 9.7% [6.0] 中2女: 22.4% [19.1] (H29)	小5男: 8.9% [8.8] 小5女: 14.1% [14.4] 中2男: 8.0% [7.8] 中2女: 19.6% [18.1] (R3)	・概ね全国平均並みになっているが、計画改定当初と比較すると小学生の数値が高くなっている ・女子の数値が男子よりも高い
成人の週1回以上運動・スポーツを実施する割合	20~40代(男性)	56%以上	38.3% (H28)	・前回調査と比較して70代の男性を除く年代、性別でスポーツ実施率が向上している
	20~40代(女性)	40%以上	27.5% (H28)	
	50~60代(男性)	68%以上	46.8% (H28)	
	50~60代(女性)	73%以上	49.9% (H28)	
	70代(男性)	85%以上	58.2% (H28)	
70代(女性)	75%以上	51.2% (H28)	53.2% (R3)	

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●子供の運動習慣や成人のスポーツ実施率は増加傾向 ●若い世代のスポーツ実施率が大幅に改善 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ実施の割合や頻度をさらに高める必要がある ●身近な地域で継続的にスポーツができる環境づくりが必要

(3) 障害者のスポーツ参加機会の拡充

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
障害者がスポーツ参加しやすい仕組みを構築している総合型地域スポーツクラブ等の数	7団体	2団体 (H29)	6団体 (R3)	・障害者を受け入れる総合型クラブ等が増えてきたが、障害者の活動拠点は高知市周辺に集中しており、身近な地域で活動できる場が少ない ・障害者のスポーツ活動を支える人材が少ない

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●障害者を受け入れるスポーツクラブなどが着実に増えている 	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境が十分でない ●障害者スポーツへの関心をさらに高める必要がある

(4) 中山間地域におけるスポーツ活動の充実

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率が向上している地区数	全7地区	-	7地区	・全ての地域においてスポーツ実施率が向上している

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●全ての地域でスポーツ実施率が向上している 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域によってスポーツ実施率に差がみられる

(5) 多様なスポーツ機会の提供

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
新たなスポーツ大会やイベントの数(高知県観光コンベンション協会助成金を活用して開催した新たなスポーツ大会やイベント)	平成29年度から10%増	1 (H29)	0 (R3) ※申請予定は4件あったが感染症の影響で中止	・コロナ感染症の影響もあり、新たなイベントや大会の開催は増えていない ・助成金の活用を申請している種目がサイクリングに限定されている

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●助成金を活用して実施したイベントや大会では、多くの参加が得られた 	<ul style="list-style-type: none"> ●市町村では、地域の課題やニーズへの対応を検討する場が少なく、財源やマンパワー不足も見られ、新たなスポーツ活動が生まれにくい

(6) スポーツを通じた健康増進

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
日常生活における歩数の増加	20~64歳 男性: 9,000歩 女性: 8,500歩 65歳以上 男性: 7,000歩 女性: 6,000歩	20~64歳 男性: 6,387歩 女性: 6,277歩 65歳以上 男性: 4,572歩 女性: 4,459歩 (H28)	20歳以上 男性: 8,058歩 女性: 6,315歩 (R3) ※感染症の影響で国民健康・栄養調査が実施されなかったため、年齢別は不明	・男性は改定当初と比較してから歩数が増加している ・男女とも目標値には届いていない
健康パスポートI取得数	50,000人	23,715人 (H30.2月末)	50,688人 (R3)	・さらなる増加に向けて取り組みが必要

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●健康パスポートの取得者が増加するとともに、日常生活における歩数も増加傾向がみられる 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくりの無関心層や関心はあるものの行動に踏み出せていない方への後押しが必要

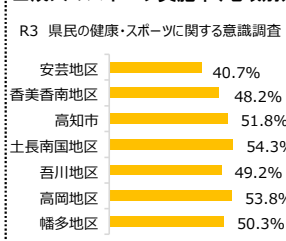
(7) スポーツに親しむ場の確保

主な整備実績	現状・課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・整備した施設において多くの方の利用が得られ、地域のスポーツ振興や交流人口の拡大につながっている。 (1)浦ノ内マリパーク構想事業(須崎市) 主な整備施設: ①艇庫 ②トレーニング室 ③カヌーコース ④海上アスレチック用倉庫 ⑤体験学習棟 ⑥観覧席 (2)カヌーのまち嶺北整備事業(土佐町) 主な整備施設: ①カヌーコース ②伴走艇・トレーナー ③艇庫 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうしたモデルを参考に、地域において多様な成果につながる整備が進められるよう、市町村の取組を支援する必要がある

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●地域活性化につながる取組事例が展開されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●既存施設のさらなる有効活用の促進 ●高知県スポーツ推進交付金制度を活用した取組の促進

※関連するスポーツの現状

■成人のスポーツ実施率(地域別)



■リモートの活動

●リモート機器の設置施設
・地域スポーツハブの拠点 10箇所
・県立スポーツ施設 6箇所

●リモート活動への参加者(R3)

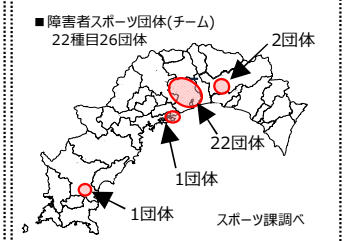
区分	参加延べ人数
地域スポーツハブ	6,118人
県立施設	4,872人
合計	10,990人

■障害者スポーツへの関心

R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

項目	割合
関心がある	12.8%
やや関心がある	35.1%
あまり関心がない	27.8%
関心がない	10.2%

■障害者スポーツ団体(チーム)の分布



今後の対策のポイント

- ポイント① 身近な地域で安心してスポーツが継続できる環境づくり(特に子供)
- ポイント② 市町村や地域における検討・実施体制の充実
- ポイント③ 障害者のスポーツ環境の充実
- ポイント④ スポーツ参加の地域格差の解消(中山間対策)
- ポイント⑤ スポーツによる健康づくりのさらなる推進
- ポイント⑥ スポーツを通じた地域づくりのさらなる推進
- ポイント⑦ コロナ禍におけるスポーツ機会の拡充
- ポイント⑧ 運動部活動の地移行への対応
- ポイント⑨ デジタル技術のさらなる活用

1. 政策目標

誰もが自分にあった競技を見つけ、トップ選手を目指すことができる環境づくりを行うとともに、質の高い指導が受けられる体制やサポート体制など、系統立てた指導体制を整備します。
その結果として、オリンピック・パラリンピックをはじめとするトップレベルの大会に出場するなど、日本を代表する選手や、そうした選手を支える指導者等を本県から多数輩出するとともに、国民体育大会や全国障害スポーツ大会など国内大会における入賞数を大幅に増やすことを目指します。

2. 取組目標の達成状況

取組目標	目標値	改定当初 (H29)	R1	R3
国民体育大会の総合成績	30位以上	47位	46位	未開催
国民体育大会の獲得競技得点	900点	552.5点	630点	-
日本を代表する選手等の輩出人数	40人以上	35人	27人	7人

・国民体育大会の順位及び獲得得点はR1年度に伸びが見られているが、R2・R3年度の大会は感染症により未実施
・日本代表選手は大幅に人数が減っているが、感染症の影響で国際大会が開催されていないことが影響

3. 施策の方向性ごとの成果と課題

(1) 新たなスポーツ推進体制による戦略的な競技力向上

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
全高知チームの数	20団体	2団体 (H29)	15団体 (R3)	・目標値には届いていないが、計画改定当初から着実に増加している ・全高知チームに認定された競技団体においても、さらに計画的な取組が求められる
競技者育成プログラムに基づく育成強化を実施している競技団体数	全競技 (47競技)	33競技 (H29)	47競技 (R3)	・すべての競技団体が競技者育成プログラムに基づく選手の育成強化を実施しているが、組織的かつ計画的な取組は十分でない

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 全高知チームが増加し特別強化コーチによる重点強化が進んでいる 競技者育成プログラムに基づく計画的な育成・強化が定着してきている 	<ul style="list-style-type: none"> 各競技団体における組織的な取組の質を高めていく必要がある

(2) 系統立てた育成・強化体制の確立

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
国民体育大会の入賞競技数	18競技	15競技 (H29)	10競技 (R1)	・目標値には届いておらず、全体的な競技力の底上げが必要 ・入賞などの結果が安定して出ている競技が、まだ限定的
特別強化選手の数	100名	73名 (H29)	76名 (R2) ※R3はB指定を廃止:26名	・特別強化選手数は微増だが、オリパラに出場・入賞する選手や世界選手権で優勝する選手が育ってきている
全国中学校体育大会の入賞競技数	13競技	6競技 (H29)	6競技 (R3)	・入賞競技が限定的
全国高等学校総合体育大会の入賞競技数	13競技	6競技 (H29)	7競技 (R3)	・入賞競技が限定的
中央競技団体に登録されている県内競技者数 (障害者)	220名	192名 (H29)	146名 (R2)	・コロナ感染症により障害者のスポーツ活動にマイナスの影響があり、全国を目指して取り組む選手が減少している

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 東京2020オリンピック・パラリンピックに本県から4名出場し、3名が入賞 世界選手権での入賞が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> 入賞など安定して結果を残している競技は限定的であり、全体的な競技力の底上げが必要

(3) 指導者の育成及び受入れの促進

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数 ※スタートコーチは除く	1,500名	1,237人 (H29)	1,371名 (R3)	・公認資格取得者は増加傾向にあるが、目標までは届かず、さらなる増加に向けた取り組みが必要
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数 (スタートコーチ)	-	-	54名 (R3)	・新たに創設された指導者資格の取得が進んでいる ・特に子供の指導に関わることが多い資格であるため、今後の資格取得者の増加を図ることが必要
障がい者スポーツ指導員数	初級: 166名 中級: 86名 上級: 20名	初級: 133名 中級: 69名 上級: 16名 (H29)	初級: 132名 中級: 53名 上級: 18名 (R3)	・コロナ感染症の影響もあり、初級と中級の指導員数は減少

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 公認指導者資格取得者が増加傾向 障がい者スポーツ指導員の上級資格取得者が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 子どものスポーツ活動を指導できる指導者の育成や資質の向上が必要 障がい者スポーツ指導員を地域ごとに増やすことが必要

(4) スポーツ医科学の効果的な活用

指標	目標値	改定当初	直近の状況	現状・課題等
スポーツ医科学の担当者や配置し、組織的にスポーツ医科学を活用している競技団体数	20団体	10団体 (R1)	10団体 (R3)	・高知県スポーツ科学センターを設置後、スポーツ医科学を活用する競技団体は着実に増加しているが、その内容や頻度はまだ十分でない

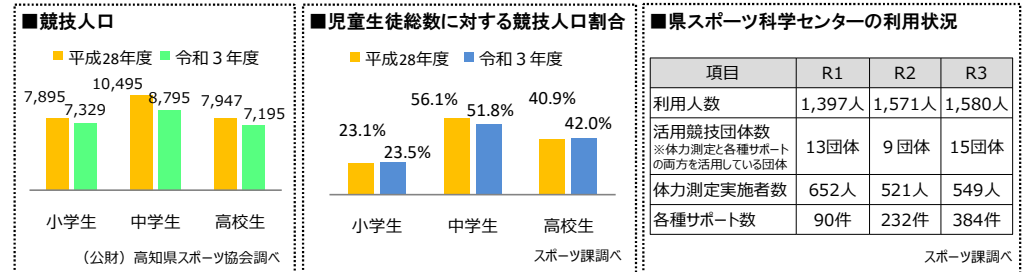
成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 競技力向上の取組においてスポーツ医科学を活用する競技団体は着実に増加してきている 	<ul style="list-style-type: none"> 各競技団体において担当者を配置した組織的な活動を拡充することが必要 各競技団体が効果的に進められるようサポート体制の充実が必要

(5) スポーツ施設・設備の整備

主な整備実績	現状・課題等
(1) 春野総合運動公園水泳飛び込み屋内練習場及び体育館空調設備 (2) 高知県スポーツ科学センター (3) 県立高知東高校スリング場 (4) 県立青少年センター陸上競技場 (5) 県立障害者スポーツセンター管理棟空調設備及び全天候型走路 (6) 土佐西南大規模公園多目的グラウンド (7) 高知市東部総合運動公園多目的ドーム	・一定整備は進んできたが、競技団体の活動の拠点となる施設はまだ不足している ・特に、複数の競技が活用できる屋内施設や人工芝グラウンドの整備が求められている

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 活動拠点となる施設での強化練習等が進められ、全国大会や世界大会で活躍する選手の育成につながっている 	<ul style="list-style-type: none"> 競技団体の活動拠点はまだ不足しているため、計画的な整備を検討することが必要

※関連するスポーツの現状



今後の対策のポイント

ポイント① 各競技団体における育成・強化の質的充実

ポイント② 競技力の全体的な底上げ

ポイント③ 指導者の育成・確保 (特に子供のスポーツ活動を指導する人材)

ポイント④ 障害者スポーツの競技力向上支援の拡充

ポイント⑤ スポーツ医科学を活用した効果的な取組の拡充

ポイント⑥ スポーツ施設の計画的な整備

ポイント⑦ 競技ごとのスポーツの裾野の拡大

施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり

1. 政策目標

スポーツツーリズムの推進や地域におけるスポーツサービスの提供を通して、人材の活用・育成の充実、移住促進、交流人口の拡大、雇用の創出を図り、経済や地域の活性化につなげる。

2. 取組目標の達成状況

取組目標	目標値	改定当初 (H29)	R1	R2	R3
県外からのスポーツによる入込客数	14万人	8.8万人	9.8万人	4.0万人	1.1万人

・R1までは入込客数は増加していたが、コロナ感染症の影響によりR2、R3ともに大幅な減少となっている。

3. 施策の方向性ごとの成果と課題

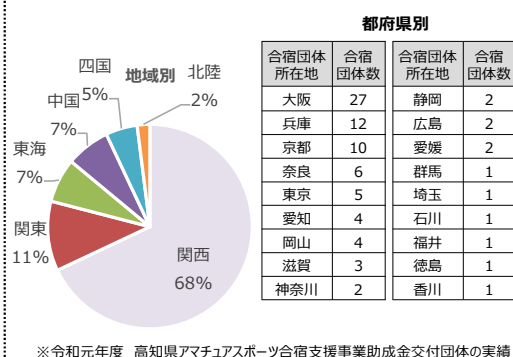
(1) 新たなスポーツ推進体制による持続可能な地域スポーツの推進

指標	目標値	改定当初	直近の状況	分析
県外からの入込客数	14万人	88,040人 (H29)	11,488人 (R3)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症の影響を大きく受けて、県外からの入込客数が大幅に減少している ・V字回復を見据えて、戦略的な取組が必要 ・スポーツキャンプや合宿の受け入れが一部の施設に（高知市、黒潮町）集中しており、そうした施設だけでは、今後の受け入れには限界があるため、市町村と連携した取組が必要 ・本県の自然環境を生かしたスポーツツーリズムのさらなる強化が必要

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●新たなトップチームの合宿受け入れが実現している ●スポーツに関する連携協定による取組が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ感染症の影響で県外からの入込客数が大きく減少している ●スポーツ合宿等が一部の地域・施設に集中している ●県内の多様なスポーツ資源のさらなる活用が必要

※関連するスポーツの現状

■アマチュアスポーツ合宿の受け入れ状況



競技別団体数		県内での主な練習施設	
競技	回数	練習施設	市町村
サッカー	21	土佐西南大規模公園	黒潮町 23
野球	14	春野総合運動公園	高知市 14
テニス	10	高知市東部運動場	高知市 6
陸上	10	サンピアセラーズ	高知市 4
バスケ	9	県民体育館	高知市 3
フットサル	5	高知市総合体育館	高知市 3
バドミントン	4	高知中・高等学校	高知市 3
水泳	3	雲の上のプール	梶原町 3
バレーボール	2	野市体育館	香南市 3
ポーツカヌー	2	安並運動公園	四万十市 3
ダンス	1		
ウエイトリフティング	1		
卓球	1		
ソフトボール	1		
柔道	1		

属性	数
日本代表	1
社会人	8
大学	46
高校	15
中学以下	15

3つの柱に横断的に関わる施策の方向性:オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツ振興

1. 施策目標

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として構築したホストタウン登録国とのネットワークを活かして、国際スポーツの取組の継続・拡大を図るとともに、東京2020大会による成果やスポーツの機運を本県のスポーツ振興のさらなる充実につなげる。

2. 施策の方向性ごとの成果と課題

(1) オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興

主な取組実績	分析
<p>(1)本県出身選手の出場・成績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック <ul style="list-style-type: none"> ・宮本葉月：飛び込み女子シンクロ板飛込（第5位） ○パラリンピック <ul style="list-style-type: none"> ・池 透暢：車いすラグビー（銅メダル） ・小松沙季：パラカヌー女子ヴァーシングル（準決勝進出） ・藤原大輔：パラバドミントン混合ダブルス（銅メダル） <p>(2)事前合宿（大会直前合宿）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チェコ共和国 <ul style="list-style-type: none"> R3.7月11日～30日 / 4競技45名 / 陸上14名(春野陸上競技場等)、水泳14名(くろおアリーナ) カヌー13名(須崎市カヌー場)、ボート4名(須崎市カヌー場) ○シンガポール共和国 <ul style="list-style-type: none"> R3.7月11日～20日 / 1競技13名 / バドミントン13名(南国市立スポーツセンター) <p>(3)国別の交流実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チェコ共和国 <ul style="list-style-type: none"> ①チェコオリンピック委員会－須崎市 / 高知県カヌー協会 ②チェコカヌー連盟－高知県カヌー協会 ③チェコソフトボール協会－高知県ソフトボール協会 ○シンガポール共和国 <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツシンガポール－高知県バドミントン協会 / 高知県水泳連盟 / 高知県卓球協会 ②シンガポールスポーツスクール－高知県教育委員会 / 高知県バドミントン協会 / 高知県卓球協会 ○オランダ <ul style="list-style-type: none"> ①オランダ自転車関係者－宿毛市 ②オランダサッカー関係者－高知県サッカー協会 ○オーストラリア <ul style="list-style-type: none"> ①ソフトボールクーンズランド－高知県ソフトボール協会 / 高知丸の内高校 ○トンガ王国 <ul style="list-style-type: none"> ①トンガコミュニティ関係者－高知県ラグビーフットボール協会 ○ハンガリー <ul style="list-style-type: none"> ①ハンガリー関係者－土佐町 / 本山町 / 須崎市 / 嶺北高校 <p>(4)聖火リレー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック聖火リレー：R3.4 / 19・20、19市町村21か所、ランナー175名 ○パラリンピック聖火リレー（出立式）：R3.8 / 16、オーテピア <p>(5)ラグビーワールドカップ2019の事前キャンプ受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事前キャンプ：R元.9月9日～9月13日 / 春野総合運動公園陸上競技場ほか 選手団50名（選手30名、スタッフ20名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリパララグビーワールドカップ2019の成果を今後のスポーツ振興にしっかりとつなげることが必要 ・各交流を継続・発展させるためには、財源の確保やサポートする人材の確保など、各交流の主体を中心とした関係機関・団体の連携が必要

成果のまとめ	課題のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ●県民のスポーツに対する関心が高まった ●ホストタウン登録国とのスポーツに関する連携協定の締結など新たなネットワークが生まれた ●ラグビーにおけるトンガ共和国とのつながりが深まった 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020オリンピック・パラリンピックラグビーWCのレガシーを今後のスポーツ振興や他分野の活性化につなげていくことが必要

今後の対策のポイント

ポイント①

市町村におけるスポーツを通じた地域活性化の取組の促進

ポイント②

市町村や民間団体等と連携したスポーツツーリズムの推進

ポイント③

スポーツツーリズムの戦略的な取組の推進

ポイント④

地域のスポーツツーリズム資源の発掘・磨き上げの拡充

ポイント⑤

スポーツプロモーションの強化

ポイント⑥

東京2020大会のレガシーをスポーツや他分野に幅広く活用し、地域の活性化を推進